

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272300861		
法人名	有限会社みなみ風		
事業所名	グループホームみなみ風		
所在地	富士市伝法1773-1		
自己評価作成日	令和2年2月4日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2272300861-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2272300861-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年2月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

最期までその人が自分らしくなじみの仲間と、ゆったり・のんびりと生活日々心地よく生活できるよう寄り添わせていただいています。みなみ側のテラスで日光浴しながら談話し、時には居眠りしたりと気ままな時間を共に過ごしています。ご家族にも安心して生活が送れるよう情報の共有に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所では、週2回軽トラックで八百屋の出張販売があり、また栄養士である娘さんの助言を得て調理専任職員が柿なますやオクラの花の天ぷらなど、目でも舌でも楽しめる献立を提供しています。開設16年目となり、今年度は法人全体で「働きやすさを求めて、記録時間の短縮を図る」取組みが始まり、介護記録やセンター方式の電子化が進んでいます。事務所には、タイムカードそば近くに月間目標や年間行事がコルクボードを用いて掲示され、「職員の目に入るように」と啓発を促していることが伝わり、書類や薬も小分けに整理整頓が成されていて、「運営を丁寧にしていこう」「職員を育てよう」との意気込みが覗えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が共有できるために、掲示し日々のケアにつながるよう検討しあっている。月の目標とともに自分のケアが見直しができるように環境を整えている。	イラスト入りの理念は玄関で来客者を出迎え、担当職員が毎月理念を基盤に立てた目標は月末にアンケートで振り返り、余念がありません。またトイレ、入浴の場面毎に不適切ケアを洗い出すことも始めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入り、町内の夏祭りには出店している。他行事には参加していただけるよう事前に案内し参加されてきている。	開設から16年目となり、味噌作りと地域の夏祭りへの出店(五平餅)、生徒の職場体験と介護実習の受入れは地域とのつきあいとして定着しています。散歩では、近所同士の挨拶が日常に溶け込んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の職場体験や、高校生の介護実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、小規模多機能と合同で開催される。ご家族や利用者の参加もある。	隣近所の関係でもある法人内の小規模多機能事業所と合同開催で、民生委員も2名がメンバーとなったださり、賑わいのある集いとなっており、「地域防災にも行ったほうがいいよ」といった助言も得られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新時や情報開示の手続き等で窓口に出向いている。GH連絡会に参加し交流会を行っている。市主催の研修に参加し連携に努めている。	地域包括支援センターは運営推進会議に毎回足を運んでくださり、花が咲く場所など地域情報を教えてもらっています。事業所も身体拘束廃止等市役所主催の研修会にも積極的に参加、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を継続し、玄関は開放されている。ミーティングで委員を中心に話し合いをし自分らしく生活できるケアが実践できるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止権利擁護委員会は3ヶ月毎に确实実施され、今2月で第8回目を迎えます。不適切ケアは従来よりミーティング内で確認してきましたが、今後は場面毎に事例検討のような形で更に学習を積む予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアが行われないう、研修やミーティングでの学ぶ機会がある。ヒヤリハットの内容等でも検討しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修を行い、制度についての学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明している。不安や疑問点についてはその都度説明し納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は面会などで、伺っている。また、利用者は日々のケアの中で話を聞き反映できるようかかわっている。	面会は概ね月2回位あり、直にコミュニケーションがとれています。また前回のいちご狩り(事業所恒例のバスハイク)と運営推進会議其々に初めて家族参加があり、今年度に入って関係に弾みがついています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の中で意見や提案を聞く機会を設けて反映することに対し共に考えている。	強風で物が倒れ、「あっ、わたしが換気して…」と発した言葉に、「換気は大事だよ」とフォローを入れる場面に遭遇し、職員の関係性の良さを感じました。実際、職員はここ2年入れ替えなく定着しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談をしながら、できるだけやりがいの持てる職場にしていきたいと日々努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合わせた研修参加の機会確保や、スキルアップできる研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市GH連絡会でのGH交流会で、他施設との職員と連携を取りながら、年1回交流会開催にむけてコミュニケーションを図りサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況や本人の生活歴の情報の元に、対話などからより要望や不安要素を聞き出しながら本人が安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の情報を得るときに、家族の状況や困っていること、不安に感じていることを伺い少しでも困っていることや、不安に思っていることが軽減できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来ていただき、ホームの説明をしながら今必要なサービスを支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、できない事を見極めた情報共有をしながら、無理のない生活ができるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対話による本人の要望等を家族に伝え、共にできることを話し合い、支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族の面会や外出がスムーズにできる環境を整えてる支援に努めている。	娘3人がかしましく毎月1度は外食に連れだしてくれるという人、また玉ねぎの皮をむける人には職員が依頼するといったことのみで事例は少なく、馴染みの美容院通いや趣味の継続は高齢化で途絶えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座る場所を決めず、TV、体操、ゲーム等職員とともにいっしょに行きかかわりを持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられて、家族が落ち着いた頃ホームへの来訪がある。他施設に入所や入院になった時には面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や意向の把握に努め、本人のできる事やできない事の共有をしながら、今本人が望まれる暮らし方を検討しあっている。	『生活の記録』と名付けたフェイスシートをオリジナルで用意し、入居にあたり家族に記載してもらっています。ミーティングでは「こういう人だったんだね」と確認するなど、その人を知る材料として活用されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、サービス利用していた施設に出向き情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り、カンファレンスを行いながら本人の現状を把握し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを担当者とおこないながら、必要な関係者と話し合い意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成することに努めている。	介護支援専門員の他に実践者研修修了者が3名な事を強みとし、半年ごとのモニタリングは担当職員を中心に据えて取組めるようになり、向上しています。また記録が電子化され時系列の比較がしやすくなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに特記事項を記入し情報の共有に努めている。実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「ねばならない」という考えをなくし、時々に必要なケアができるように努力している。家族により、必要な物品等が用意できないときなどは代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住宅街に施設があり、散歩中に庭の花を見せていただいたり、利用者といさつや簡単な会話ができるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療。異常時は24時間主治医と連絡が取れる体制を整えている。	全員が月2回の訪問診療をこなう協力医に変更しています。受診の立ち合いは介護職兼務の看護師(週4日勤務)がおこない、日常の医療面でも大いに助けとなり、介護職にとって心強い存在です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談しながら、日々の気づきの情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを持参し本人の情報提供し、早期退院に向けて情報交換を行い、カンファレンスに参加させていただいている。途中経過等詳細を主治医と共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化対応におけるケアマニュアルを説明し本人や家族の意向を重視しながらホームでの指針や終末期に向けた方針を共有できるよう説明している。	今年度2名のお見送りをおこなっています。事業所の歴史も長く、職員も変動なく、また代表者をはじめ法人内には看護師が数名おり、安定した取組みができており、静かな日常の中で旅立ちの日を迎えていることが叶っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各疾病のマニュアルがあり、事故発生時の応急対応の研修を行っている。定期的な訓練を行い実践力を高め合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練実施。訓練には職員全員参加し、訓練方法を討議している。総合防災設備会社の立ち合いもあり指導を受けている。事業所内で専門の講師が講義する研修会開催している。	夜間想定を含み年2回おこなう法定訓練の内1回は法人内の事業所と合同開催としています。職員の顔ぶれも変っていないことから、手順や方法が形骸化している向きもあり、今後は訓練内容を検討の予定です。	運営推進会議メンバーから助言があったこともあり、地域の防災訓練へ加わることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分らしく、いつまでも」暮らしていけるよう、誇りやプライバシーの保護に配慮している。	「これまでいろんなことがあってその人の人生を生きてきて～」と、尊厳にかかわることは管理者から常に発信し続けています。またトイレや入浴における羞恥心についてはバスタオルを上手に活用しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	束縛せず、本人の思いや希望、意見が言えるよう傾聴する。待つ姿勢で臨み、落ち着いてせかさないう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり のんびり なじみの仲間と 自分らしく いつまでも」を念頭に、できる限りその方の望む方向で過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師が来訪しカットしている。着替えるときは本人が選べる工夫をしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、季節感を味わっていたい。	週2回、軽トラックで八百屋の出張販売があり、栄養士の娘さんの助言を日々受ける調理専任の職員が、柿なますやオクラの花の天ぷらなど、目でも舌でも楽しめる献立を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食、ミキサー食、水分のトロミ等、その方の状態に応じた対応をしている。一日の水分のデータをとり必要な水分量を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促し、本人の力量に応じ、ブラッシングの仕上げ補助し清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のパターンに合わせて、トイレでの排泄ができるよう支援をしている。	平均介護度3.3となって、1名のみ布パンがいるのみで、他は概ねリハビリとパットで過ごしており、介助が必要です。1名テープ止めのオムツの人がいますが、日中はトイレできるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩促し、水分や牛乳を飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に留意し、本人の希望も取り入れて気分良く入浴できるよう支援している。	週3日を目安に、一人ひとり湯を張り替えての入浴が実施されています。医師にほぼ全員にワセリンをだしてもらい、保湿ケアや整容について脱衣室に貼り出し、職員の観察を促しています。	クラフト作品もなかなか難しい段階の人が増えていますので、お風呂が楽しみとなるような工夫があると、よいと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて日中ベッドで休む等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方されている内服薬の情報共有はできている。内服時は個々に合わせ飲み込んだことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報の共有をしながら、本人の好きなおやつや服飾等気を配っている。談話や散歩、体操を個々に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設の施設と合同での行事がある。ドライブで池の鯉や花見に出かけている。	ウッドデッキは日焼けするほど陽当たりがよく、冬でも蜜柑をむいて談笑という日があります。年間の外出行事に位置付けられてもいる。来る4月のいちご狩りに向け、重度の利用者が長時間車中で過ごせるようにと、現在諸事手配中です。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族も承知で、少しのお金を持っている方はいるが、他の方は金銭を管理していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら行うことはないが、ご家族の要望があれば対話等できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの南側に大きな窓があり、朝日を浴び、日差しの強さにはレースのカーテンを使用している。動線を考えて配置している。掲示物は季節感を取り入れるよう工夫している。	昭和の筆筒やミシン、ピアノや大きなソファードと回想的な物品に囲まれていて、以前は少し重たい空気感があるように思われた共用空間は、こあがりの和室の片付けも進み、明るさと清潔感が増しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に各自室に行ける関わりをしている。テーブル席やソファで談話し、思いのまま過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具等、各個人の物を持参してもらい見慣れたものを使用してもらっている。	居室には予め大きなクローゼットが備わっています。こまめに家族が衣替えする部屋がある一方で、遠方など諸事情で「できない」とし、事業所職員が季節毎に中身を入れ替えている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	記名すること(大きめに)により自分の物を判断しやすくしている。自分で確認し選ぶことができる工夫をしている。		